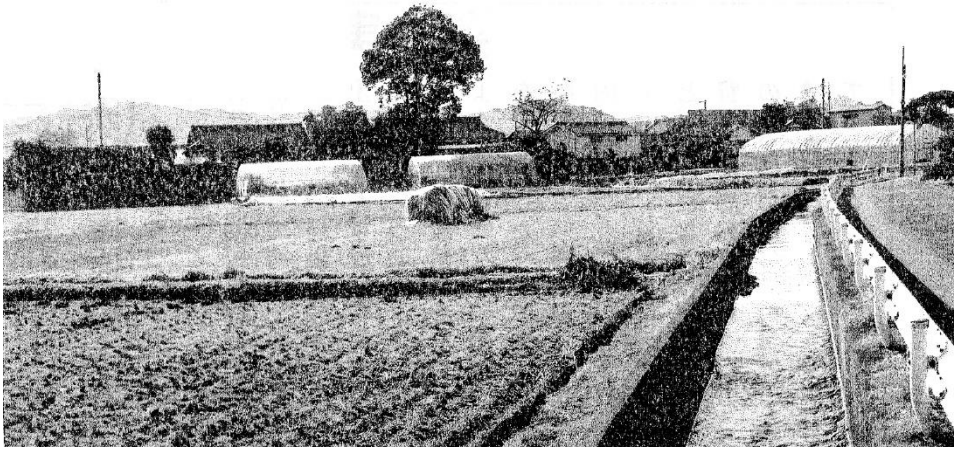


2002年

迎春

中野あきと事務所



田園風景の残る川辺堀之内

気はやさしくて
力もち



中野あきと議員の活動紹介特集

「お金が無いから市民もがまんを」……。『財政難』を口実に、市民みんなで築き上げ大切にしてきた高齢者、障害者の福祉を問答無用で切り下げ、子どもたちの学校給食にまで手をつけようとしてきた馬場市政——

私は、市の財政について徹底的に調べ上げ、事実をねじ曲げた『財政難』キャンペーンについてただすとともに、子育て支援、学校給食から介護、まちづくりまで、その充実、実現へとことん論戦を行なってきました。

《論戦内容は裏面に掲載》

みなさんの草の根要求をかかげて

- ◇障害者施設『すずかけの家』の法人化、建設費の補助実現(93年3月議会)
- ◇東平山3丁目JR官舎前の信号機、街灯など、交通安全対策(直接申し入れ)
- ◇平山住宅公社前道路の雨水対策(99年9月議会一般質問)
- ◇南平7丁目付近の雨水対策工事の実現(直接申し入れ)
- ◇一番橋たもとの信号機設置など交通安全対策の実現(99年9月議会一般質問)
- ◇南平1丁目に投票所の増設実現(98年6月議会一般質問)
- ◇平山6丁目交差点信号機の改善(直接申し入れ)



丘陵地が多い日野市の特性や高齢化が進むなかで、ミニバスなどの公共交通の

西平山地域の拡充を実現
南平・平山地域に新設を

ミニバス路線

新設・充実を求める声は切実です。

この間、ミニバスに関するアンケート調査を行ないながら、市議会でも繰り返し路線の拡充を要求。一部西平山地域を走るミニバスの本数が増える見通しとなりました。さらに切実となっている、南平・平山地域への路線の新設と、ワゴンタクシーの充実へ、皆さんと力を合わせ全力を尽くします。

親子のふれあいの場
南平4丁目児童公園

「売却予定の市有地を、子どもたちの広場に」との請願が議会で採択されて三年。「どんな公園にしようか」と住民参加で計画づくりが行なわれていたものの、なかなか予算がつかない状況が続いていました。

一昨年十二月の市議会でのこの問題を取り上げ重ねて予算化をせまり、市は努力を回答。今年度予算化されまもなく公園が実現することになりました。

都営平山四丁目住宅

地域開放型の

集会施設実現へ

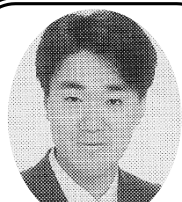
平山四丁目の都営住宅の建て替えにともない、地域に不足している集会施設の要望が上げられていました。村松みえ子都議(当時)と対都交渉を行ないながら市議会でも要望し、第三期工事(六十二戸)の中で生涯学習施設として実現する見通し(平成15年)となりました。

中野あきと事務所ニュース

みどり清流

2002年 1月 発行 第4号《新年号》

発行 日本共産党 中野あきと事務所
599-3350 発行責任者 小山敏正



☎ 591-7376
akitojcp@livedoor.com



学校給食民間委託問題
で追及する中野議員

都内17区市の委託の実態を調査

「学校給食は、子どもたちの『安全』と成長にかかわる重要な問題。経費は経済効率だけで考えてよいのか」……。馬場市政が打ち出した学校給食民間委託の方針について、この三年間、『学校給食をもっとよくする会』などの保護者を中心とした住民運動と力を合わせて、議会でも徹底的に論戦。今年度当初予算・六月・九月の補正予算と、三度にわたる民間委託費予算化の動きがあったものの、その度に一般質問で論陣をはりストップをかけたきました。

学校給食

民間委託をはね返す
徹底論戦を展開

壁を打ち破った論戦

難解だと敬遠されてきた

区画整理問題



とことん研究、住民と共に取り組む

市の財政状況がきびしい中で、計画が大幅に遅れ住民の生活に深刻な影響を及ぼしている区画整理問題。住民の皆さんの「いったい、いつまでかかるのか」「このまま続けられるのか」といった不安や悩みをしっかりと受け止めなければ、事業全体のことから仮換地、移転補償、清算金など個々の取り組み、住民の権利にか

かわる問題まで徹底して研究、議会での質問も繰り返し行いました。また『まちづくりの主役は住民』を念頭に、住民の皆さんと月一回、これまでに十七回の学習・相談会を続けています。行政担当者や他の会派などからも「ここまで本格的に取り組んでいる議員は初めてだ」という声も。

徹底的に分析、論戦

財政問題

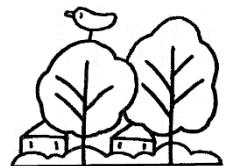
『財政難』だからがまんを」の攻撃を打ち破る

「このままだと『財政赤字団体』になりかねない」……。こういつて財政危機を市民にアピールする馬場市政。『財政赤字団体』というのは、実質収支の赤字率が二〇％で、日野市の財政規模では六〇億円を超える赤字となったときに、はじめて対象になること。しかし現実の日野市の実質収支は、毎年八億円から九億円の黒字を

出していることなどを明らかにし、事実をねじ曲げて「危機」をおおるやり方を徹底的に批判。以降「赤字団体転落の危機」などという宣伝はなくなりました。下水道や区画整理などの特別会計、土地開発公社などの財政問題にも、全力で取り組んでいます。

《議会で取り上げ続けた質問》

- ☆地域に根ざした介護・福祉の相談交流の場、「在宅介護支援センター」の拡充
- ☆保育園の待機児解消、小児救急の充実、乳幼児医療費助成など子育て支援
- ☆トイレ、黒板、蛍光灯、プールなどの緊急改善、学校校舎の改修・耐震工事
- ☆かわせみ商品券、商店街活性化事業などの促進、リフォーム助成など中小企業の支援
- ☆生産緑地の追加指定や後継者支援事業など農地保全、農業支援



短信

日本共産党の活動と市民の声が事態を切り開いた。足掛け三年に及ぶ論戦で、市長が「できない」と言っていた介護保険の「保険料減免を求める決議」が可決。議会最終日の前日、与党の自民党・公明党が、提案者である共産党に対し賛意を表明、全会一致に。あとは市長がこの議会の意向にどう答えるかだ。▽「草の根からのたたかい」は、国を包囲し、姿勢をただし、国に低所得者対策を確立させるエネルギーを蓄えます。同時に社会保障を、国でも地方でも予算の主役にするたたかいでもあります」（三成一郎著『日本の社会保障をどう再建するか』より）▽引用した三成さんの著書が好評。三成さんは日本共産党中央委員会・社会保障対策部長で、市内の南平三丁目に在住。新たな年の門出しに、引用に続く部分を紹介しよう。「それはちょうど、六〇年代から七〇年度にかけて日本共産党の躍進を背景に、老人医療費無料化が全国に広がり、ついに国の制度として確立させたたたかいを想起させます。介護保険のたたかいを、社会保障の連続改善にストップをかけ、二十一世紀をふたたび社会保障の上げ潮にする好機として、大いに奮闘しましょう。」